

情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る

I 主題設定の理由

同じ地域に学ぶ子どもの教育に携わるという立場で、共通課題を確認し、臨地研修・講演会・授業参観を通して系統的によりよい指導が行えるよう本主題を設定した。

II 研究の内容

1 第1回交流研究会（臨地研修）

- (1) 日時 令和元年8月7日（水）13：30～
- (2) 目的 1回目の臨地研修は、山梨南中学校区の地域を学びその良さを子どもたちに伝え今後の学習に生かしていくこと。
- (3) 内容
根津記念館を訪れ地域の歴史や偉人について学ぶ。

2 第2回交流研究会（講演会）

- (1) 日時 令和元年11月6日（水）15：00～（於 山梨小学校）
- (2) 目的 南中ブロックで取り組んでいる授業と家庭学習の結びつきについて、具体的な事例を参考に学ぶ。
- (3) 内容 義務教育課指導主事の藤原裕喜先生を講師にお迎えし、効果的な家庭学習や自主学習についての研修。

3 第3回交流研究会（山梨小学校授業参観及び情報交換会）

- (1) 日時 令和2年2月19日（水）14：00～
- (2) 目的 小学校の授業を参観し、小中の連携の視点から学力向上やそれに伴う学級での取組などについて、意見を交換し合い、今後の教育活動に生かしていく。
- (3) 内容
 - ア 授業参観 全学年
 - イ 情報交換会
 - ・各校の家庭学習の取組を含む学力向上に関する取組について
 - ・授業の感想、各学校での学習のきまり、児童生徒の様子について

Ⅱ 成果と課題

1 成果

1 回目の臨地研修は、山梨南中学校区の地域を学びその良さを子どもたちに伝えるために、地域の歴史と偉人について知り、地域について再確認するために根津記念館を訪問した。根津嘉一郎が山梨にもたらした功績や歴史的価値のある住居について学び、ちょうど特別展として戦争に関わる作品が展示されており平和について学ぶ機会にもなった。

2 回目は山梨小学校にて、指導主事藤原裕喜先生を講師に学習会を開催した。自主学習や家庭学習と授業との有機的なつながりや具体的な実践に関わる理論的な根拠もしていただき学ぶことが多い学習会となった。また、自主学習や家庭学習についてだけではなく、日頃の授業実践や生徒たちの学習効果を高めるための具体的なアプローチのアイデアや経験則だけに頼らない理論的な背景についても触れさせていただき広いテーマで学びのある学習会となった。最終は、日川小学校による授業公開であった。中学校の教職員にとっては、小学校の授業の様子を見ることができ貴重な機会となり、また情報交換会では、家庭学習の取り組みや、各学校での学習のルールや授業規律等について情報を交換し、有意義な小中連携の時間をもつことができた。

2 課題

今年度の研究の内容・方法・参加体制などについて総括し、課題を明らかにする。また、次年度以降の課題解決に向けての方向性を探り、以下のような課題と今後の方向性を示す。

1 ギャップや不登校児童・生徒の問題など、生活面だけでなく、学力や授業づくりの取組など、小中学校の様子を互いに十分に把握する機会を今後も確実に設け、継続的に「小中連携」を図る必要がある。今年度はとくに、いずれの学校でも力を入れて取り組んでいる自主学習（家庭学習）について具体的に交流を図ることができたので、それぞれのスタイルの良さを共有し、小中連携できる工夫を今後も継続して行くことができれば良いと考える。また、今後共有したスタイルから小中連携の観点から小学1年生から中学3年生まで一貫した取り組みにできるような一般性の高い取り組み方を作って行くことが今後の課題になる。

本年度の研究の中で、工夫した研究方法や取り組みなどに関する課題については、日川小で行った情報交換会では、小中ともにどの学年の先生もできるだけ揃うようにグルーピングをしたので、情報交換では、様々な取組を紹介し合うことができた。特別支援担当の先生は、同じグループで話し合うことで、より一層細かな情報交換をすることができた。また、児童生徒の発達段階の違いを学ぶよい機会となるので、今後もそのようなグループづくりを心掛けていきたい。しかし、来年度からは研究体制の変更により研究回数が減るため、今年度の成果や課題を来年度の新しい研究体制にマッチするようなシステムを構築する必要がある。また、早い段階で方向性と研究の柱を共有し、実りある交流になるようにするために今年度のまとめを次年度の始まりになるようにする必要があると考える。

(ブロック長 平井 成二)